事例No.	1966
公表年度	R4
団体の属性	中核市
団体名	長崎県佐世保市

事例区分	第三セクター

タグ	・観光 ・社団法人・財団法人 ・ICT

事例種類	DXに関する取組

事例内容・タイトル

民間企業と連携した自然環境、二次交通への対応

出典

第三セクター等に関する参考事例集

長崎県佐世保市	（公財）佐世保観光コンベンション協会

民間企業と連携した自然環境、二次交通への対応

1.　法人概要（事業内容・経営状況等）

＜事業内容＞

○　当協会は、（財）佐世保観光開発公社と（社）佐世保観光協会が合併し、平成15年4月に設立、同年同月から事業を開始している。

○　佐世保市及び周辺地域との緊密な連携の下、観光客やコンベンション（国際・国内の各種会議、展示会等をいう。）の誘致を行うことにより、佐世保市における観光及びコンベンションの振興を図り、もって国際、国内観光の振興による人的交流の促進並びに地域経済の活性化及び文化の向上に寄与することを目的にしている。

○　当協会は、平成29年11月にDMO※1（観光地域づくり法人）として登録され、観光地域づくりとデータ分析等による戦略的なプロモーションの推進といった、プロモーション事業やマーケティング調査事業を行っている。



佐世保観光情報センター外観



観光案内画像

＜経営・出資状況等＞　（単位：千円）

経常収益	512,859	佐世保市出資額	55,000
経常損益	▲7,016	佐世保市出資割合(%)	45.4
資産	303,794	その他地方団体出資額	―
純資産	255,658	その他地方団体出資割合(%)	―
自己資本比率(%)	84.2	役職員数(人)	8

※経営・出資状況は、令和3年度決算数値

＜団体データ＞

人口（人）	243,074
標準財政規模（百万円）	61,784
財政力指数	0.53

※人口は、住民基本台帳に基づく人口（令和4年1月1日時点）
※標準財政規模及び財政力指数は、令和3年度決算の数値

2.　本事例の概要

Ⅰ.日産の日本電動化アクション「ブルー・スイッチ※2」との連携企画

○ 佐世保市および当協会は、日産自動車（株）が実施する、日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」と連携し、環境にやさしい電気自動車で佐世保市の主要な観光地に訪れた際に受けられる「電気自動車優遇企画※3」を、実施（令和4年9月27日～令和5年10月31日）している。

○ 当協会は、日産自動車（株）のほか、地元の販売会社である長崎日産自動車（株）、日産プリンス長崎販売（株）及び佐世保市と協力し、日産自動車（株）が推進する「ブルー・スイッチ」のPRを行う。

「ゼロカーボンシティさせぼ2050」のロゴマーク

Ⅱ.二次交通※4や個人への着地型商品の販売へのMaaS※5の活用

○ 佐世保市の文化・観光振興、周遊性向上を目指し、域内移動支援の実現を目的として、（株）ゼンリンが提供する観光型MaaSサービス「STLOCAL＜佐世保・西九州版＞」を令和4年10月5日より開始した（「STLOCAL＜佐世保・西九州版＞」：https://stlocal.net/）。



STLOCAL紹介画像

3.　取組の背景、理由、着手のきっかけ

Ⅰ.日産の日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」との連携企画

○ 佐世保市は、地球環境問題が人類の最重要課題のひとつであると認識するとともに、豊かな自然環境を次の世代に遺すため、地方公共団体として様々な取組を展開している。そこで、令和4年2月17日に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、2050年までに市域から発生する温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すこととした。今回の電気自動車優遇施策は電気自動車の普及促進による、地域の脱炭素化および観光の活性化などを目的に講じたものである（「ゼロカーボンシティ宣言」：https://www.city.sasebo.lg.jp/kankyo/kansei/zerocarbon.html）。

Ⅱ.二次交通や個人への着地型商品の販売へのMaaSの活用

○ 「佐世保市DX戦略」において、観光分野の課題として「デジタルマーケティングの強化・スマートツーリズムの実現による体験観光の価値向上」を掲げている。その中で、「最適な観光ルート等による訪れたい佐世保市の構築」に取り組むこととしており、（株）ゼンリンが持つノウハウを活用し、その実現に向け、MaaSアプリを活用した観光情報やルートの案内及びチケット手配について、実証実験を実施している（「佐世保市DX戦略」：https://www.city.sasebo.lg.jp/soumu/jyohou/dx_strategy.html）。

4. 取組の具体的内容

(1) 取組方針とその決定過程

Ⅰ.日産の日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」との連携企画

○ 佐世保市と日産自動車(株)など6社は、令和3年4月22日、電気自動車を活用した「災害連携協定」を締結した。協定項目の1つとして、「平常時も電気自動車の普及促進を行うほか、市のイベントで使用する電力を電気自動車から供給することで、『電気自動車は「走る蓄電池」』としての活用を市民へ積極的にアピールし、環境・防災意識向上を目指す。」ことにしている(「災害連携協定」:https://www.city.sasebo.lg.jp/bousai/2021denkizidousyakyoutei.html)。

○ 当協会では、コロナをきっかけに変化した「新しい観光」への取組を検討する中で、日産自動車(株)が全国で実施している「ブルー・スイッチ」企画に注目し、「災害連携協定」を締結した日産自動車(株)との事業検討を令和3年11月頃から開始した。

Ⅱ.二次交通や個人への着地型商品の販売へのMaaSの活用

○ (株)ゼンリンが長崎市において先行して実証実験する観光型MaaSのスマートフォンアプリ「STLOCAL」及び観光情報Webサイトに、佐世保・西九州エリアを追加する形で、令和4年10月5日からサービスを開始した。

○ 対象地域を拡大することによって、長崎市・佐世保市間の周遊を促す仕組みを提供し、さらなる観光体験価値の向上、公共交通の利便性の向上を図る。

(2) 取組の具体的な進め方

Ⅰ.日産の日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」との連携企画

○ 電気自動車優遇企画の実施にあたり、 当協会において、市内事業者への参画を求めるとともに、観光情報センターでのチラシの配布、参画事業者等への資料(電子媒体)提供及びSNSでの発信といった企画のPRを積極的に実施した。

Ⅱ.二次交通や個人への着地型商品の販売へのMaaSの活用

○ 当協会が認定した「『海風の国』観光マイスター※6」がSTLOCALの記事を作成し、マイスターが発見した感動をそれぞれの言葉で表現することで、旅マエの魅力発見に貢献するほか、当協会や交通事業者、観光事業者と連携し、電子チケットを提供している。



▲観光マイスターの方が執筆した記事イメージ

5. 取組の効果

Ⅰ.日産の日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」との連携企画

○ 「電気自動車優遇企画」については、市内の15施設の協力を得て、特典を用意するなどし、市民をはじめ施設職員の関心を得た。また、充電スポットの整備に関する相談を受けるなど、電気自動車のPRと理解促進が進んだ。

○ 市制施行120周年記念事業として実施したイベントにおいて、一部の出店者が利用する調理器具等の電源を、電気自動車から供給した。電気自動車から一般の電気機器への活用をPRするとともに、イベントの省エネルギー化を実現した。

Ⅱ.二次交通や個人への着地型商品の販売へのMaaSの活用

○ 観光マイスターとの記事作成ワークショップを2回開催。計34名が参加。

○ 電子チケットとして、松浦鉄道1日乗車券、九十九島水族館の入館チケット及びグルメチケットなど、25件の取扱いがある。

○ 観光地・施設情報として、周遊コースや観光・飲食スポットなどの情報を522件掲載している。

○ 観光記事として、定番から穴場まで、地元タウン誌や地元をよく知る人が紹介する佐世保ならではの魅力的な情報を47件掲載している。



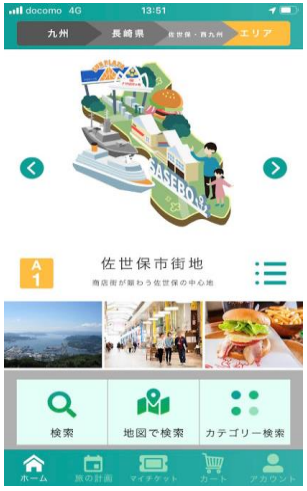
連携企画紹介ページ画像



イベントでのPRの様子



記事作成ワークショップの様子













STLOCALアプリ画面のサンプル：佐世保市内を11のマイクロエリアに分け、各エリアのガイドとおすすめスポット等を紹介。地図上からも検索が可能。

6. 今後の課題（今後の方針、残された課題等）

○ 宿泊施設や観光施設等へ電気自動車の充電設備を整備するなど、電気自動車の利用環境の整備が課題。

○ 観光を伴う移動やイベント実施時の環境負荷軽減は、「持続可能な観光」に繋がる。持続可能な観光に関する研修会など、市民や観光客に対して啓発活動を行うとともに、実現可能な取組から実践していくことが必要である。

○ MaaSアプリについては、認知度の向上とともに、電子チケットの取り扱い範囲の拡大や、コンテンツの充実が課題。

○ ストーリー型観光コース・コンテンツの整備や、「寄り道」したくなる仕組みなど、「街歩き」サービスの構築を図るとともに、現在サービスを展開している長崎市、佐世保市の2市のほか、県内の他エリアへのサービス拡大を計画している。

7. 注釈

※1 DMO
「観光地域づくり法人」の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。（観光庁HPから引用：https://www.mlit.go.jp/kankocho/page04_000048.html）

※2 ブルー・スイッチ
ブルー・スイッチとは、日本が抱える地球温暖化や災害対策等の課題を解決するための日産自動車（株）の活動、日本電動化アクションのこと。電気自動車や充電器の普及など、電動化によるソリューションの提供を通じて、多くのパートナーと共に取り組んでいる課題解決に向けた活動は、環境、災害対策、エネルギー・マネジメント、観光、過疎化対策など、多岐にわたる。

※3 電気自動車優遇企画
対象となる観光施設やホテル等での特別割引、プレゼントの提供などを、電気自動車利用者の皆様が受けることができる企画。

※4 二次交通
拠点となる空港や鉄道の駅から観光地までの交通。

※5 MaaS
地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となる。

※6『海風の国』観光マイスター
「海風の国」佐世保・小値賀観光圏として連携して観光地域づくりに取り組んでいる、佐世保市と北松浦郡小値賀町の観光に関する豊かな知識と、おもてなしの心を持って観光客を案内できると当協会で認定した方（『海風の国』観光マイスター：https://www.sasebo99.com/feature/kankou-meister）。

＜参考＞地方公共団体の問合せ先　担当課：佐世保市観光課　連絡先（電話番号）：0956-25-9639